

武蔵野市文化振興基本方針 第1回策定委員会 主な意見

■方針で取り扱う文化の範囲

【範囲を絞り込むのか、広げるのか】

- 市民の役割も示されると思うが、やはり行政が関与できる範囲もあると思うので、その範囲に絞り込んでいくとよいと思う。
- 「文化」は生涯学習とも関連するが、どこまで範囲を広げるのか。
- 他の行政計画で議論され、施策等として位置づけられていることはよしとして、取り上げられていない部分に絞って議論すべきだと思う。
- 子どもを対象に考えると、文化は広く捉えられてもよいのではないかと思う。

【武蔵野らしさ(方針の特徴)】

- 「芸術」ではなく「文化」となると幅広い検討が必要だが、結果としてできる方針が広く浅いものになるのではないか。「武蔵野市の文化」を定義して、対象やキーワードなど、議論の焦点を絞り込むべき。
- 他自治体と代替可能なものではない「武蔵野らしさ」について議論することになると思う。そのためには自分たちが目指したいまちや住みたいまちを議論し、そこにあるとよい文化を話せるとよい。
- 武蔵野市は、市外から様々な生活をしている人たちが寄り合ってつくられてきたまちであり、そういった歴史そのものが市の文化であると感じている。そのために寛容性があると思っている。

■方針の対象(総論)

【市民を中心とした方針】

- 方針では、子ども、子育て世代、高齢者など、対象となる市民ごとに考え方を示してもよい。
- アンケートは文化に関心のある人が回答するものだ。これまで市の事業は関心のある人を対象としてきたと思うが、これまで視野に入っていなかった人をフォローしていくことは大事だ。
- 市のユニークさを市外にPRするためのもの、広域的に文化を振興するためのものという考え方は理解できるが、市民が文化的な雰囲気を感じられるまちにすることも重要だ。子どもも重要だし、高齢者も遠くには出かけられないので市内の環境が重要だろう。
- 武蔵野市の方針であるので、対象は市民だと思っている。

【広域的な方針】

- 武蔵野市の立地や交通アクセス、また文化施設の整備状況から考えると、市内にかぎらず、周辺自治体を含んだ広域的な文化振興を検討していったらどうか。
- 広域的にという意見があったように、市だけで終わる必要はなく、交通の便を利用して様々な場所に行って文化を堪能すること、他の場所から人が多く来て、文化を楽しみ、武蔵野市が賑わうことも良いことであると思う。それは武蔵野市がいかにユニークで他とは違う色彩を持った文化のまちをPRしていくことになる。

*

■方針の対象(各論)

【子どものための機会のあり方】

- 子どもについては、機会を与えてもらっているが、子どもがやりたいことを自由にできる場所や機会はない。そのような場について議論したい。
- 子どもの文化体験が、体験キット化しているため、順調に進んでいるようだが、意欲、関心を持たせるのは難しい。子どもが自分なりに思い切り取り組み、「自分事」として文化をとらえられるようになるとうい。
- 子どもを対象に考えると、文化は広く捉えられてもよいのではないかと思う。【再掲】

【高齢者のための機会のあり方】

- 高齢者も遠くまで行けないので、市内で文化的な潤いを感じたいというところもあるだろう。【再掲】

■方針の期間

【10年間は長いか、短いか】

- 社会や経済の情勢も変化と思うので、方針の期間が10年程度は長く感じる。一方で、文化は10年程度をかけて育てていくものでもある。10年間で複数のステップにわけて議論したい。
- 今回の策定は基本方針なので、長期的なものと理解している。

■将来的な方向性

【文化振興条例】

- 国は文化振興条例を策定することを勧めている。武蔵野市としても将来的には検討してもよいのではないか。